

續いたものと思はれる。

⑩ 元史卷百七十二程鉅夫傳にはこのことを至元二十四年の條下に記してあるが、世祖本紀には二十三年に繋けてある。今本紀に従つて置く。

⑪ 自分の知る所では、後の種類に屬するもので時代の最も古いのは、鼠兒年正月二十六日の安西王の令旨で、シャヴンヌ氏はこれを一二七六年、即ち世祖の至元十三年にあつて居る (Chavannes, *Inscriptions et pièces de chancellerie chinoises de l'époque mongole*. T'oung pao, série II. vol. IX. p. 376.) 前の種類のものには至元十二年の碑があり、これもシャヴンヌ氏のこの論文中に第四十二として解釋せられてある。

⑫ 例へば曲阜の孔廟にこの種の碑がある。シャヴンヌ氏も前記の論文第三〇九頁にこのことを記して居る。

⑬ 例へば山西永濟縣棲巖寺にある虎兒年 (大德六年) の聖旨を刻した大德九年の碑の如きはこの種である。いふまでもなくこの類のものゝ今日に知られて居るものは其の數多く、シャヴンヌ氏の論文中にも少からず載せられてある。

⑭ 例へば延祐三年七月、至順二年九月等の聖旨碑の如きはこれであつて、Roland Bonaparte, *Documents de l'époque mongole*. Planche XIII. に載せられてある。

⑮ シャヴンヌ氏の前記の論文に附した圖版第十九を参照。

⑯ 同上第十八参照。

⑰ 例へば元史文宗本紀至順二年四月戊辰の條に、「詔以泥金畏兀字、書無量壽佛經千部」と見ゆるが如き類である。

⑱ この書翰はポーチエ譯註のマルコ・ポロ旅行記 (Pauthier, *Le livre de Marco Polo*) 第一卷第七七五頁に轉寫し且つ譯註を施して居り、ユール、ユルヂエ兩氏譯註の同旅行記第三版の卷二、第四七四頁の次には其の寫眞を掲げてある。尙その寫眞の一層鮮明なものは前記 Bonaparte, *Document de l'époque mongole* に載せられてある。

⑲ 元朝秘史には福、洪福等の語は速圖、即ち sut の形を用ゐてある。華夷譯語、韃靼館續增通用門には洪福の字音に速禿を當てる。suu も用ゐられて居るかも知れないがまだ見出さない。suu についてはコザレウスキーの蒙古語辭典には